

【美術・中3・「今を生きる私へー自分に向き合って表すー】①

育成を目指す資質・能力

〈本時のねらい〉友達と作品を相互鑑賞しあい、自分の表現意図に応じた表現方法を発想したり選択したりし、主体的に表現活動に取り組むことができる。

ICT活用のポイント

ICT端末で曲を聴くことで、好きな曲を描くためのイメージを膨らませることができ、多様な考えを出すことにつながる。

事例の概要

教師の実演を見て、相互鑑賞の方法の確認をする。

班になり、相互鑑賞を行う。ICT端末を使って相手が選んだ曲を聴いて、イメージを膨らませ、アドバイスする。

友達からのアドバイスを参考に、制作を進める。

- 自分の制作段階を確認し、本時のめあてをつかむ。
〈めあて〉今の作品をもっと自分の「こうしたい！」に近づけるには？友達とお互いの作品を鑑賞し合い、解決策を見つけよう。
- 作品をつくる上で悩んでいること、困っていることを学習カードに書く。

【事例におけるICT活用の場面】

- 作品を制作する場面で、ICT端末を使い、自分の好きな曲を聴くことで、形、色、構図などのイメージを膨らませる。「自画像」ではなくて「好きな曲」で自分を表現することにし、生徒の意欲や関心につなげる。
- 班活動での相互鑑賞の場面でも、作品、学習カードを見ることとともに、ICT端末を使い、相手が選んだ曲を聴くことで、アドバイスに生かす。
- 相互鑑賞後、再び制作を進める。
- 相互鑑賞を経て表現活動にどのように取り組むことができたのかを視点に振り返りを行う。

【美術・中3・「今を生きる私へー自分に向き合って表すー】②

【事例におけるICT活用の場面①】
「好きな曲」で自分を表現するために
ICT端末を使って曲を聴く



【事例におけるICT活用の場面②】
相手が選んだ曲を聴いて アドバイスをする



○児童生徒及び教師にとってのICT活用のメリット等

- ・ ICT端末を使い、実際に曲を聴きながら制作することで、関心を高め、形、色、構図などのイメージを膨らませることができた。
- ・ 相互鑑賞に取り組む間、鑑賞のポイントをプロジェクターで映し出しおくことで、常に生徒が確認できるようにした。
- ・ 学習カード（思考錯誤カード）を使った相互鑑賞では、アドバイスを書き合った。作品を見るだけではなく、ICT端末を使ったことで、相手が選んだ曲を実際に聴いたり、配色カードを見ながら色の性質、感情にもたらす効果などを加味した色を選んだりすることで、生徒が自分なりの根拠を持ってアドバイスができるようにした。

○ICTを効果的に活用するためのポイント

- ・ 手元にICT端末を置いておくことで、いつでも使用できるようにしていた。そうすることで、制作の場面だけではなく、鑑賞でも自由に曲を聴くことができ、アドバイスに生かすことができた。

○活用したソフトや機能

- ・ ウェブブラウザ